

Web とは、インターネット上で標準的に用いられている文書の公開・閲覧システム。文字や図表、画像、動画などを組み合わせた文書を配布することができる。文書内の要素に別の文書を指し示す参照情報（ハイパーリンク）を埋め込むことができる「ハイパーテキスト」（hypertext）と呼ばれるシステムの一つである。

## 目次

- 概要
- Web サーバと Web ブラウザ
- Web ページと Web サイト
- Web アプリケーション・Web サービス
- 歴史と名称
- この分野の用語
- 他の辞典の解説

## Web

“web” とは「蜘蛛の巣」を意味する英単語で、多数の文書が互いにリンクを介して複雑に繋がりが合っている様子を蜘蛛の巣の網目状の構造になぞらえている。

## Web サーバーと Web ブラウザ

Web で情報を提供するコンピュータやソフトウェアを「Web サーバ」（web server）、利用者の操作によりサーバから情報を受信して表示や処理を行うコンピュータやソフトウェアを「Web クライアント」（web client）という。

Web クライアントのうち、受信したページの内容を整形して画面に表示し、人間が閲覧するために用いるものを特に「Web ブラウザ」（web browser）という。サーバとクライアントの間の通信には「HTTP」（Hypertext Transfer Protocol）と呼ばれる通信規約（プロトコル）が標準的に用いられる。

Web 上の情報資源の所在の指定には、「https://www.example.co.jp/index.html」といった形式の「URL」（Uniform Resource Locator）という表記法が用いられる。Web サーバを表すドメイン名（ホスト名）と、Web サーバ上での資源の位置を指し示すパス（階層的なディレクトリ名とファイル名の組み合わせ）を繋げた形式になっている。

## Web ページとサイト

Web における情報の基礎的な単位は「Web ページ」（web page/ ウェブページ）で、見出しや文章などの文字情報をもとに HTML（Hypertext Markup Language）や CSS（Cascading Style Sheet）などのコンピュータ言語で体裁や構造、見栄えを記述する。

HTML は記述された文字情報の中にソフトウェアへの制御情報を埋め込むことができるマークアップ言語と呼ばれる言語で、文字情報のこの部分が見出しで、本文はここからここまでで、段落の区切りはここである、といった指示を文書中に埋め込む形で記述することができる。

Web ブラウザはこの制御情報に基づいて、見出しを太い大きな文字で表示したり、段落の間に空白を差し込むなどの整形を行い、閲覧者が文書の構造を把握しやすいように表示してくれる。

ページ内には文章だけでなく箇条書きや表、図形、画像、動画、入力要素（フォーム）などを掲載することができる。画像や動画など文字で書き表せない要素は外部のファイルを URL で指定して埋め込むことができる。

要素のページ内での配置や大きさ、枠線や罫線、文字の字形（フォント）や色といった具体的な見栄えに関する指定項目（スタイルという）は、当初は HTML で構造とともに記述していたが、CSS という専用の言語で構造とは別に指定する方式が主流となっている。

ページ内の要素には外部の他の資源（多くの場合は他の Web ページ）の URL を指し示すリンクを設定することができ、ブラウザ画面に表示されたリンクを指定して開くよう指示（クリックやタップなど）すると、表示がリンク中の URL で指定されたページに切り替わる。簡単な操作でリンクをたどって次々に文書から文書へ表示を切り替えていくことができる。

このリンク機能を利用して、本のように複数のページ群をまとめた単位を「Web サイト」（web site/ ウェブサイト）という。サイト内のページからは外部のサイトのページへリンクを張ることもでき、Web 全体がリンクを介して連結された巨大な地球単位の文書データベースとなっている。

## Web アプリケーション・Web サービス

Web サーバには静的なファイルの送信だけでなく、ブラウザからの要求に基づいて動的にコンピュータプログラムを実行して何らかのデータ処理を行うこともできる。

また、Web ブラウザにはページ上に記述された簡易なプログラム（スクリプトという）を実行し、サーバと任意のタイミングで通信したり、利用者の操作に応じて表示内容を変化させたりすることができる。

このような動的な仕組みを組み合わせ、サーバとブラウザが連携して利用者対話的に操作することができるアプリケーションソフトを構築することができ、これを「Web アプリケーション」あるいは「Web サービス」という。著名な応用例として、ブラウザで買い物ができるオンラインショップ（EC サイト）や、利用者同士がコミュニケーションできる SNS などのネットサービスがある。

## 歴史と名称

Web はインターネットがまだ学術機関を中心に利用されていた頃、1989 年に欧州核物理学研究所（CERN）のティム・バーナース・リー（Tim Berners-Lee）氏が所内の論文公開・閲覧システムとして考案したものが基礎となっている。

1990 年代にインターネットが一般に開放され普及していく過程で、電子メールなどと共にネットの代表的な応用システムとして広く利用されるようになった。2000 年代中頃には主に日本を含む先進国で欠かすことのできない重要な情報インフラの一つに成長している。

もとは“World Wide Web”、略して「WWW」が正式名称で、現在も Web サーバのホスト名などにこの名が残っているものの、英語では次第に“the Web”（固有名詞の Web）のように略されるようになり、さらに進んで現在では一般名詞の“web”がインターネットの Web を指すことが増えている。日本では当初「ホームページ」の名称で紹介され、現在も初心者向けの説明などで多用されるが、「ウェブ」「Web」の呼称が浸透しつつある。